

# 倫理, 政治・経済

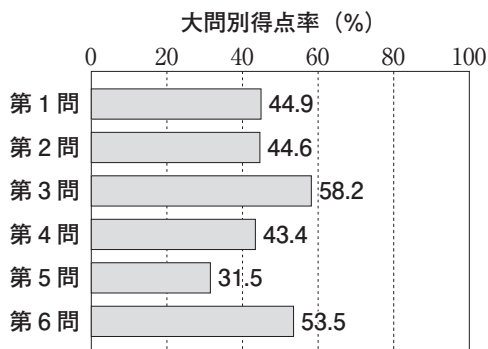
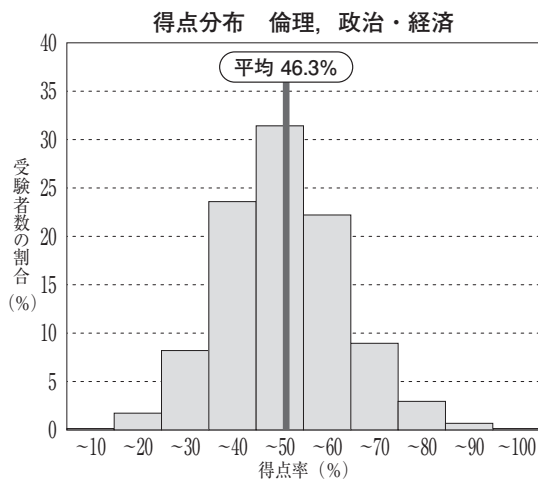
まだまだ受験勉強は始まったばかり。一步一步でも、着実に学習を進めていこう。

## I. 全体講評

今回の「2018年度第2回4月センター試験本番レベル模試 倫理, 政治・経済」の平均点は、46.3点であった。2月実施の第1回の平均点が41.2点だったので、一歩前進したと言える。

設問ごとの正答率のばらつきは、既習者の割合が多い分野とそうでない分野ということから、おおむね説明がつく。近年のセンター試験の特徴でもある8択形式の設問に慣れていくことも必要であろう。

まだ得点にこだわるべき時期ではないので、それぞれの設問についてよく復習し、分からなかった事柄を一つひとつ解決して、自分のものにしていくことが大切である。



## II. 大問別分析

### 第1問 青年期分野・現代社会分野

資料文の読解はできていたが、少し踏み込んだ内容の理解は弱い。

大問の得点率は44.9%であった。資料文読解問題(問3 [3])の正答率は高かったが、問2 [2]は8択の組合せ問題で、4人に1人ほどしか正答できなかった。問1 [1]と問4 [4]はオーソドックスな4択問題だが、それぞれ生命倫理とユングについての理解が問われ、どちらも正答率は30%台にとどまった。

### 第2問 源流思想・日本思想分野

この分野は未習者が多く、苦戦した受験者が多い。

大問の得点率は44.6%で、倫理分野では最も低かった。吉田松陰について問われた問6 [11]はオーソドックスな4択形式だったが、4人に1人ほどしか正答できなかった。日本思想史は時期的に未習者が多く、特に近代日本思想ではいっそうこの傾向が強いことがはっきりと示された形である。ブッダについての問1 [6]は選択率が大きく割れ、曖昧な理解にとどまる受験者が多いことが分かる。

### 第3問 源流思想・西洋近現代思想分野

非常によく出来ていたが、ヘーゲルについての設問は9割以上の受験者が不正解だった。

大問の得点率は58.2%と、全問で最も高かった。比較的既習者の多い分野であったことと、大半の受験者がパスカルの読解問題(問4 [16])を正答できたことなどが大きい。ただ、ヘーゲルについての語句組合せ問題(問5 [17])は、8.1%という全問中で最も低い正答率だった。

### 第4問 企業, 市場, 経済主体

経済分野についてはまだ基本事項を押さえていない受験者が多い。

大問としての得点率は43.4%と、ふるわなかつ

た。問2 [20]は、金融についての基礎事項であったが、正答率は13.3%と、極めて低かった。市場について問うた問8 [26]も正答率は35.7%と低く、経済分野の基本を押さえている受験者が少ない実情がうかがえる。

#### 第5問 国会・内閣

点のとりやすいテーマだが、得点率は低かった。

大問としての得点率は31.5%と、大問中で最も低かった。消去法の効かない組合せ問題が5問中2問を占めていたという理由もあるが、標準的な事項についての4択問題の正答率も30~40%前後にとどまった。特に問4 [30]は①の選択率が正答率を上回っている。比較的点を取りやすいテーマだけに、残念な結果である。これからの学習に期待したい。

#### 第6問 国際法, 国際社会

既習者の割合が高かったらしく、上出来であった。

大問としての得点率は53.5%と、時期を考えると上出来であった。特に国際法についての問3 [34]は、消去法の効かない正誤組合せ問題であったにもかかわらず、6割以上の受験者が正答できていた。「政治・経済」で最初に学ぶ民主政治の基本原理に関わる設問が多かったことが、この結果をもたらしたのであろう。慢心せずによく復習してほしい。

### Ⅲ. 学習アドバイス

#### ◆全分野の見取り図を手に入れよう。

まだ模擬試験の結果に一喜一憂する必要のない時期であるが、根拠もなく楽天的なものも問題である。「倫理, 政治・経済」という科目についてほとんど何も知らないという場合は、少しでも早い段階で科目の全体像を自分なりにつかみ、今後の見通しを立てるようにしてもらいたい。

そのためには、前回のアドバイスの繰り返しになるが、まずは教科書、あるいはそれに類するものを通読しよう。その際に、決してすべてを理解しようとはせずに（そのようなことはできるはずがない）、学べき事柄だけでもつかめれば十分というくらいのつもりで、とにかく最後まで読み通そう。

そして次には、用語集などを使いつつ精読してみよう。こうしたことを3回繰り返せば、ほとんどの事柄について確かな理解が身につくことだろう。

#### ◆確かな学習計画を。

まだ本格的な受験勉強はスタートしたばかりである。しかし、世界史Bや日本史Bの選択者は、この時期にすでにある程度の学習を済ませている。公民科目でこれと同じような状況にある受験生は、浪人生を除けば極めて少ない。しかも「倫理, 政治・経済」の場合には「倫理」と「政治・経済」の実質2科目をものにしなければならない。これは想像以上に難しいことである。焦る必要はないが、センター試験までに得点力をつけられるよう、計画的に学習を進めていく必要がある。

そこで、いつまでにどの分野を学習し、いつから過去問演習を開始するかといった学習計画を立ててみよう。

もちろん実際の計画は、途中で修正する必要も出てくることだろう。しかし計画を立ててそれを修正するのと、計画なしになんとか勉強してなんとなく先延ばしにすることでまったく意味が違う。完璧な計画である必要はない（そんなことは不可能である）ので、とにかく計画を立てて進めてみよう。